

第2次恵那市地域計画

中野方地域自治区

【キャッチフレーズ】

里山の恵みを活かし、みんなが生き生きと安心して暮らせるまち

【地域の現状】

中野方町には笠置山・坂折棚田などの地域資源が豊富にあります。基本的な産業は水田を中心とした農業です。盆地地形であることから傾斜地が多く、水田一枚あたりの面積も小さいため生産性は高くありません。そのため、里山の森林や沢水などの自然を活かして、林業・建築業・養蚕・楽器製造といった農業と共存できる産業が成立してきました。また、地形的な理由からか、地域全体の一体感があり、まちづくり活動も盛んで、様々な取り組みを住民自身で行っています。人口が減少し、少子高齢化と核家族化が進んでいます。特に、町内に働く場所が少ないため、若者が都市で居住することが多くなっています。これに伴い、まちづくり活動を担う人材の減少や高齢化により、行事や住民自治での役の負担が増加しています。この豊かな自然の中で、温かい地域の中で暮らし続けたいという人たちの、現在までの里山の自然と農業、地域住民の活動が中野方町の景観を形成し、守ってきました。これを継続していくことがこれからの課題です。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

町の継続と発展には、これまで地域を育んできた自然を大切にしながら、これからもその恵みを活かした農林業の活性化が必要です。

今後、人口の減少を少しでも防ぎながら、農林業と関連した二次産業（林産品も含めた多様な6次産業化）や、観光を柱とした三次産業の育成をはかり、働く場所の確保、地域に誇りを持てる祭りや文化の継承を進めます。様々な活動を連携させ、まちの資源（ひと・もの・かね）がうまく循環する取り組みを計画的に進めます。

産業・文化の発展・継承によって、住民の生活の向上を図る取り組みと同時に、安心・安全なまちづくりを進めます。これまで実績をあげている住民の手による様々な教育・福祉活動をさらに発展強化し、高齢者から子どもまでみんなが支え合える自立した福祉環境を整えます。さらに人と人とのつながりを地域の様々なニーズに広げ、福祉だけでなく、様々な生活の見守り、住民へのよろず相談などの仕組みを整備して、住民がいつそう住みやすく、また住みたくなる中野方町を目指します。

【計画の柱(基本目標)】

1. 里山の恵みを活かす

地域資源である笠置山山麓の森・水・空気・陽光などを保全・活用した棚田農業（中野方の田畑は全て棚田）・林業など、持続可能なまちづくり。

2. みんなが生き生きする

住民の生活を大切にしながら、地域行事や伝統的なお祭りを盛り上げ、地域資源を活かした観光・6次産業化で働く場所と生きがいをつくります。

3. 安心して暮らせるまちにする

既存の福祉活動を中心に子供からお年寄りまで元気に暮らせ、中野方町らしい人と人とのネットワークづくりをすすめ（人口が減っても）暮らしやすいまちづくり。

【基本施策】

計画の柱1： 里山の恵みを活かす

(1) 山林・原野を元気にする

間伐・皆伐を推進し、山林の災害防止や水源としての機能を高めます。また、間伐したスギ・ヒノキなどの木材の新しい利活用を進め、利用価値を高めます。

(2) 自然を守り、自然に親しむ

山々に囲まれた自然豊かなまちです。里山の整備を行うことで昔ながらの里山風景を存続し、日常生活で自然と触れ合える環境作りを進めます。また生活排水対策や河川清掃を積極的に行い、山川ともに綺麗なまちづくりを進めます。

(3) 棚田の里・栗の里 緑うるおう やすらぎの里を目指す

中野方の田畑は棚田農業としてブランド化しイメージアップを図り、積極的に農地の利用を勧めます。また、耕作放棄地を農業だけでなく、広葉樹や花を植えるなど里山の景観を守り観光にも活用します。

計画の柱2： みんなが生き生きする

(1) 移住・定住の促進をする

空家や宅地の情報発信を積極的に行い、若い世代が中野方町に住み続けられるようにし、また移住者が入りやすい環境を整えます。Iターン・Uターン者がまちに溶け込みやすいようサポート体制を強化します。

(2) 産業の開発と充実

中野方の地域性を活かした産業のイベントや情報発信を積極的に行い、後継者育成と地域経済の活性化を図り、誰もが安心して働き続けられるようにします。

(3) ふるさとを学び、伝承する

めれた囃子や杵振り、中野方音頭など、守っていくべき故郷の伝統を次世代に繋げるために、子どもたちとともに楽しめるように交流を行います。また町の行事などの見直しを行って町民が楽しく参加できるようにします。

計画の柱3： 安心して暮らせるまちにする

(1) 福祉の拠点の活用

現在行っている地域福祉活動をさらに発展させ、地域全体の福祉のレベルを上げていきます。また地域で子育てしやすい環境づくりを進めるため、子どもの健やかな成長をサポートするための取り組みを行い、学童保育の充実や地域の農業と連携した食育事業などを進めます。

(2) 自分たちのまちは自分たちで守る意識を高める

災害が発生したときには、地域が連携して災害に対応することが大切です。各自治会で防災訓練や自主防災組織の育成を進めます。また、普段から高齢者や子どもへの見守り活動を行い、防犯活動にも力を入れます。

(3) 地域のネットワークづくり

人口が減っていく中で、既存組織の見直しや統合を進め、必要な組織に集中することで負担軽減と、組織力の向上を図ります。また世代間交流などを行い幅広い年代の意見を聞き、まちづくりに反映していきます。

【地域間連携での取り組み】

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
☆笠置町 ☆中野方 ☆飯地町	柱1：活気あふれるまちづくり （4）ボルダリング、ゆず、ボートカヌーなど地域資源の活用 柱2：みんなが生き生きする （2）産業の開発と充実 柱3：足元の魅力に磨きをかける”飯地まるごと再発見” （1）まちの魅力発見、発信
取り組み内容	
<p>◎地域の魅力発信</p> <p>笠周地区にはそれぞれ魅力となる景観、伝統芸能、食べ物があります。イベントによる、物販販売など各地域が連携して取り組むことにより、さらなる集客を高めて行きます。</p> <p>また、統一を持たせた地域ブランドの構築を進め、ネット販売等をはじめとする、インターネットによる情報発信を一本化にすることにより、多くの情報が集約され魅力が高まるとともに、観光など回遊できるエリアの拡大が期待されます。</p>	

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
☆笠置町 ☆中野方 ☆飯地町	柱1：活気あふれるまちづくり （1）移住定住事業の促進 柱2：みんなが生き生きする （1）移住・定住の促進をする。 柱：足元の魅力に磨きをかける”飯地まるごと再発見” （1）まちの魅力発見・発信
取り組み内容	
<p>◎多種多様な人材の発見</p> <p>笠周地域において人口減少が大きな課題となっています。UターンIターンを増やし人口減少を抑制するためには、地域の魅力を発信するとともに、交流人口を増やす必要があります。そのためには、景観、施設だけでなく、人のつながりが重要な視点となります。地域の隠れた多種多様な人を見つけるためには、地域間で連携して、広域で教授いただき活躍できるよう、後継者の育成を含めて人材バンクの登録など、人財の集積を進めて行きます。</p>	

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
☆笠置町 ☆中野方 ☆飯地町	柱1：活気あふれるまちづくり （2）子育て支援 柱3：安心安全に暮らせるまちづくり （3）高齢者支援 柱3：安心して暮らせるまちにする （1）福祉の拠点の活用 柱2：まちぐるみで”子育て”と”生きがい人生”をサポート （2）高齢者の生きがいづくりとケア
取り組み内容	
<p>◎福祉機能の強化</p> <p>高齢化が進む中で、高齢世帯や、独居世帯の増加により、高齢者が安心して地域で生活するための支援体制や環境整備を進めながら介護施設等を誘致し、生き生きと元気で暮らせるよう生活環境の向上を進めていきます。</p> <p>また、子育て支援も、協力して子育てができる支援体制やネットワーク化を図り、地域で子育てが楽しくなる仲間づくりを目指します。</p>	

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
☆笠置町 ☆中野方 ☆飯地町	柱2：住みやすいまちづくり （2）景観保全 柱1：里山の恵みを活かす （1）山林、原野を元気にする。 柱3：足元の魅力に磨きをかける”飯地まるごと再発見” （1）まちの魅力発見・発信
取り組み内容	
<p>◎里山資本主義による地域経済の活性化</p> <p>笠周地域の景観を守るため、間伐の推進、耕作放棄地の解消などを進めていく上で、新たな人材が必要となります。</p> <p>これらを行っていく人材を育成し新たな起業、雇用の場となり生業ができるよう、地元企業、まちづくり団体も巻き込んだ体制を整え、6次産業化に代表される、地域経済の活性化を進めていきます。</p> <p>自然豊かな笠置山の資源を活かした環境整備やイベントの開催等により多くの集客を高めて行きます。</p>	